

平成 19 年 5 月 28 日

運転中の 1 号機における誤警報の発生の調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

1 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 18 年 11 月 21 日午前 9 時 44 分、「B 系原子炉自動スクラム*¹」の警報が発生しました。当該警報は、平均出力領域モニタ*²に関連する信号により発生したのですが、関連するパラメータには異常がないことから、同日午前 9 時 47 分、同警報を解除しました。

警報発生時に平均出力領域モニタに関わる作業がなかったことから、平均出力領域モニタの誤動作によるものと考えられますが、今後、原因について詳細に調査することとしておりました。

これによる外部への放射能の影響はありません。

([平成 18 年 11 月 22 日お知らせ済み](#))

平均出力領域モニタについて詳細に調査した結果、同モニタ (B) の回路内の基板において、一時的な信号異常が発生し、これにともない当該警報が発生した可能性が高いことがわかりました。

対策として、当該モニタの回路のうち、一時的な信号異常が発生したと推定される基板を新品に交換しました。

また、他の平均出力領域モニタの回路内の同一基板についても、念のため、次回定期検査時に点検します。

以 上

* 1 : B 系原子炉自動スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系だけ発生した状態であり、制御棒は動作しません。スクラム信号は A・B 両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させます。

* 2 : 平均出力領域モニタ

原子炉運転中の出力の大きさを計測する装置で、6 チャンネル (A～F) あり、出力が大きくなった場合等に、原子炉を自動停止させる信号を出す機能があります。